特集 特別支援教育の視点で学級経営・授業づくりを

学校教育課

子どもたちの心の悩みはさまざまな問題行動に現れますが、**問題行動を発生させない予防こそが最大の対策**です。子どもたちが一日の多くの時間を過ごす学級は、何の不安もなく落ち着いて過ごせる空間でなければなりません。

現在の子どもたちの状況を見ると、様々な事情から不登校になっている子ども、問題行動を繰り返す子ども、その前兆のある子ども等がいます。このような状況の子どもたちに共通する背景の一つとして**「対人関係調整力の問題」**があります。

対人関係をうまく形成できない、集団生活に参加できない子どもたちが学級という枠に集められたとき、さまざまな問題行動を起こします。学級がとてもストレスの多い場所であることを、我々教師は改めて認識すべきです。

このことから、今までと同じような学級経営・授業づくりの考え方ではベテランの先生でもうまくいかないということが起こり得ます。子どもたちの学校生活の基盤である学級を支えていく担任は、特別支援教育の視点を取り入れた学級経営力と授業づくりの力を高めていく必要があります。それは、**発達障がいの子どもには「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利」な支援を増やす**という意味です。

福島県は、特別支援教育の基本理念を**「地域で共に学び、共に生きる教育」**へと発展させています。すべての幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校には、その理念の下、具体的な教育実践が求められているのです。この資料を契機として、各校（園）において学級の規則や人間関係を大切にした学級集団づくりや授業づくりの校内研修の充実を期待します。

参考文献
○ 福島県学校教育審議会答申「今後の特別支援教育の在り方について」（H21.9.18）
○ 「発達障害のある子の困り感に寄り添う支援」佐藤暁 著（学研）
○ 「Q－Uによる特別支援教育を充実させる学級経営」河村茂雄 編著（図書文化）

※「困り感」という用語は学研の登録商標です。

作画
指導主事 馬場 泰